

【林道事業（県事業） 事後評価審議資料】

○事後評価実施箇所一覧表	・・・p. 1
○事後評価箇所表	・・・p. 3
○説明資料（パワーポイント）	
② 公共林道事業 「下呂～萩原線」	・・・p. 7



令和5年度 事後評価実施箇所一覧表 2月5日審議箇所

番号	担当課名	具 事 業		事業 採択 年度	完了 年度	全体事業費 (百万円) 上段：当初 下段：最終	事 業 名	路線・地区・河川名 等	実施箇所 (市町村 名)	対応方針(案)		
		補助・ 交付金	具 単							今後の事後評価の 必要性	改善措置の必要性	新規事業へ適用すべき留意点
1	森林経営課	○		S62	R3	9,313 9,637	公共林道事業 (森林環境保全整備事業・農山漁村地域 整備交付金・地方創生道整備推進交付 金・ふるさと林道緊急整備事業)	下呂～萩原線 下呂市	下呂市	今の段階では 必要なし	今の段階では必要なし	県、市、林業事業体が一体となって、計 画的な森林整備に直結する林道計画とす ること 地域住民が主体的に維持管理できる体制 をつくること



# 令和5年度事後評価箇所表

担当課〔森林経営課〕

番 号	2	事業名 (路線・河川名等)	公共林道事業 (林道 下呂～萩原線)
事業実施箇所	起点：下呂市御厩野 終点：下呂市萩原町桜洞	全体事業費	(当初9,313百万円) 9,637百万円
採択年度	昭和62年度	完了年度	令和3年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>林道下呂～萩原線は、飛騨川東部の山腹を通り下呂市御厩野から下呂市萩原町桜洞に至る、基幹となる連絡林道。5,123haに及ぶ周辺森林の効率的な林業経営の促進及び森林のもつ多面的な機能の発揮に寄与することを目的とする。</p>		
事業概要	<p>幅員W=5.0～7.0m、延長L=40,816m、全体事業費9,637百万円                  利用区域森林面積 5,123ha 同蓄積 1,447,379m<sup>3</sup>                  主要構造物：アスファルト舗装工、橋梁工、路側構造物工（重力式擁壁、補強土壁、L型擁壁、ブロック積）、法面保護工</p>		
概要図			

評価結果	
① 住民参加・協働による効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元住民や林業関係者による草刈りや側溝清掃等の施設維持活動の実施。</li> <li>・白草山や御前山への登山などレクリエーション活動のアクセスとして多くの地域住民が利用。</li> </ul>
② 事業の効果	<p>○適正な森林管理と効率的な林業経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林道下呂～萩原線が完成したことにより、林道を起点に森林作業道が開設され、ハーベスタ（伐倒造材機械）やフォワーダ（積載式集材車両）等の高性能林業機械を活用し、木材を効率的に搬出できるエリアが広がった。</li> <li>・林道整備により、利用区域内に14団地、1,311haの森林経営計画が立てられ、過去15年間で953haの間伐が実施された。</li> </ul> <p>これまで間伐を実施してきた人工林の多くが伐期に達しており、今後、主伐再造林へと移行していく。</p> <p>○費用対効果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果を分析の結果、投資的効果率は1.4。</li> </ul>
③ 環境面への配慮	<p>○現地発生土が利用可能な路側擁壁工を採用</p> <p>補強土壁工は現地発生土が利用できるため、現場外搬出に伴う建設機械の稼働および残土処分経費の縮減がはかられた。</p> <p>○木製品の活用</p> <p>木製品の活用は、地域材の利用により森林整備促進への寄与と、炭素固定の役割を担っている。</p>
④ 事業を巡る社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の合板工場、バイオマス発電施設等の稼働</li> <li>・森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度の開始</li> <li>・ウッドショック（価格・急激な需要の変動）</li> </ul> <p>○取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の林業事業者は、保育間伐から搬出間伐へ転換、主伐、再造林の取り組みを開始</li> <li>②下呂市が森林経営管理制度を活用し、未整備森林の森林整備（間伐）を計画的に実施</li> </ul>

⑤利用者・地域住民等への効果

○地域住民へのアンケート結果

地域住民の83%が利用したことがあると回答があった。

利用者からは、所有山林での森林整備や木材運搬がし易くなった。林道からの眺望が良く、自然の豊かさを楽しむことが出来る。また、登山へのアクセスとして便利などの意見があり、林道開設は、森林整備、木材生産の増進、森林とふれあう機会の創出に寄与している。

⑥対応方針（案）

○今後の事業評価の必要性

森林整備が計画的に実施されており、今後継続して計画されていることから、今の段階では、今後の事業評価は必要なしと判断する。

○改善措置の必要性

多くの地域住民に利用されており、本林道の開設事業に対する改善要望はなかったことから、今の段階では、改善措置の必要はなしと判断する。

○新規事業に適用すべき留意点

計画的な森林整備に直結する林道の整備計画を、市町村、林業事業体と協調し策定すること。

地域住民が主体的に林道の維持管理に参加できる体制づくりが必要。







# 事業概要 (1)

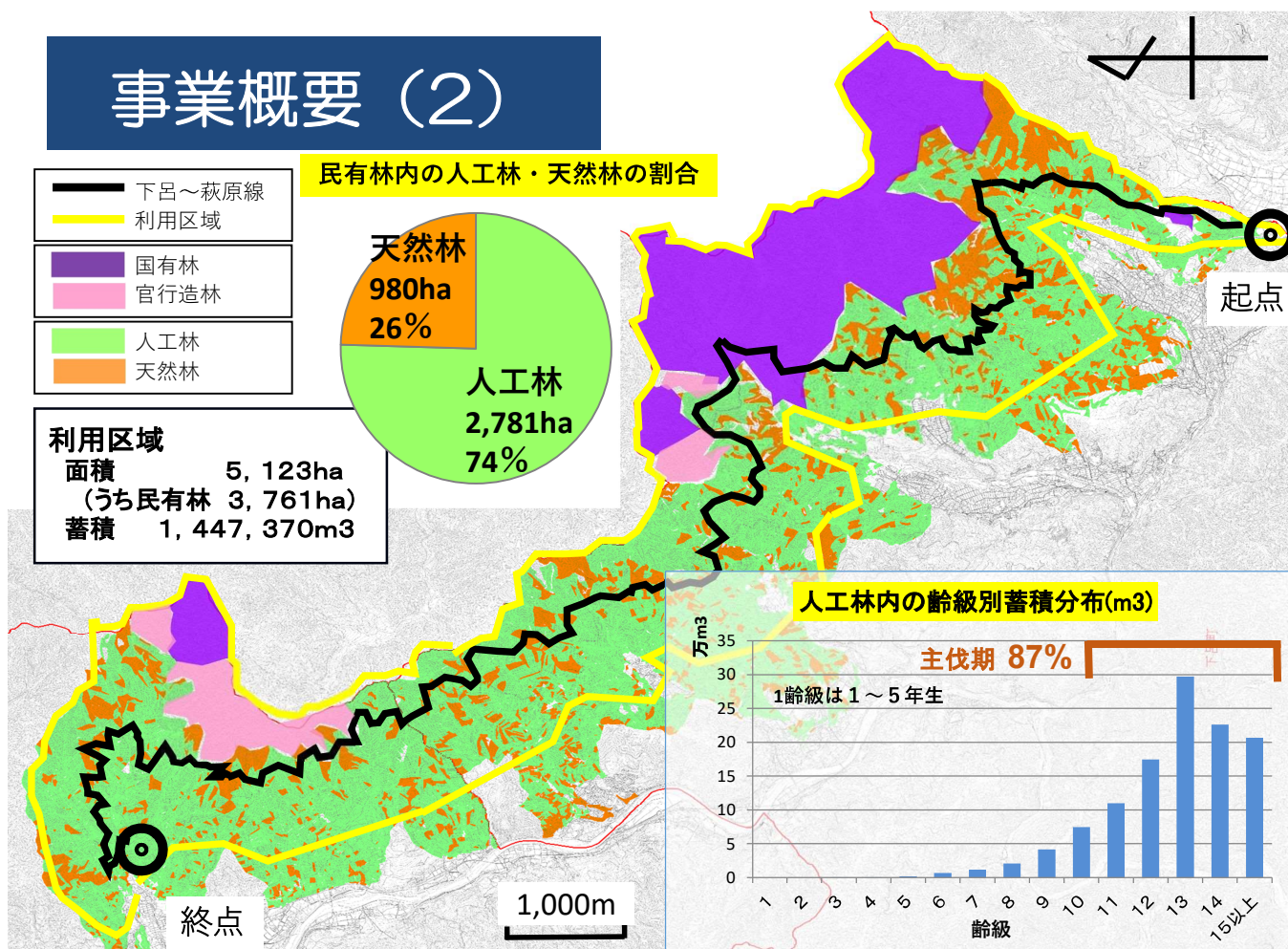
## <事業目的>

下呂市御厩野から下呂市萩原町桜洞に至る飛騨川東部の山腹に、基幹となる連絡林道を建設し谷沿いの既設林道と接続することで、5,123haに及ぶ周辺森林の効率的な林業経営の促進及び森林のもつ多面的な機能の発揮に寄与する。

## <概要>

- 起 終 点 : 下呂市御厩野 ~ 下呂市萩原町桜洞
- 延 長 : 40,816m
- 総事業費 : 9,637百万円
- 事業期間 : 昭和62年度~令和3年度 (35年間)
- 幅 員 : 5.0m及び7.0m
- 利用区域 : 面積 5,123ha  
森林蓄積 1,447,379m<sup>3</sup>

# 事業概要 (2)



# 住民の参加・協働による効果



①草刈り作業(森林所有者等)



②御前山登山道の整備(地域団体)

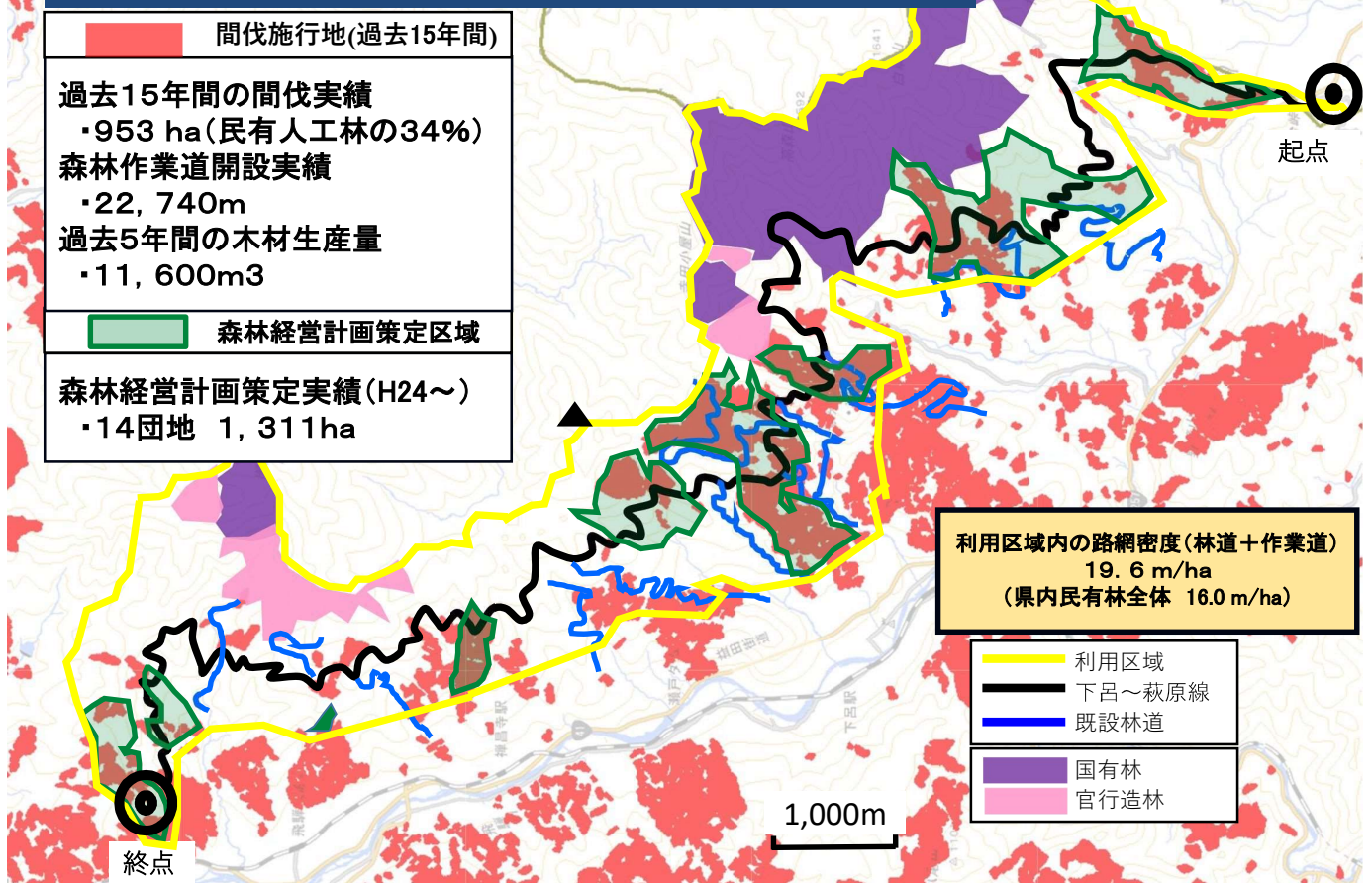


③地元住民による白草山登山

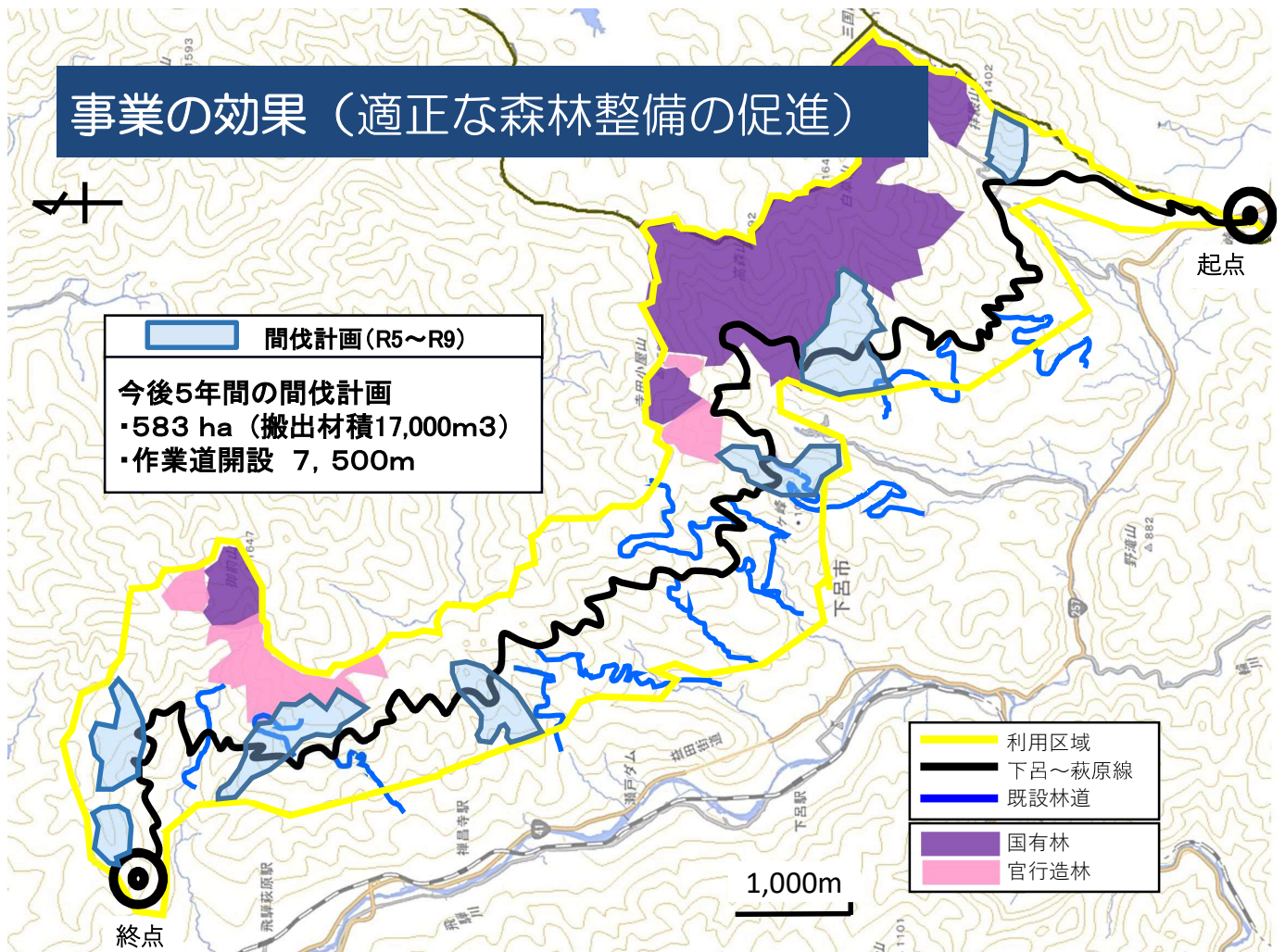


④地域の林業事業者による木材生産

## 事業の効果 (適正な森林整備の促進)



## 事業の効果（適正な森林整備の促進）



## 費用対効果分析

### 事業の効果

- 木材生産等便益 (伐採輸送経費の縮減効果等) 効果全体の24%
- 森林整備経費縮減等便益 (往復時間短縮経費縮減効果、森林の公益的機能の増進効果等) 効果全体の75%
- 森林の総合利用便益 (森林とのふれあい機会の創出等) 効果全体の 1%

### 投資的效果

$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 1.4$$

前回評価時  
(H30年度)  
1.2

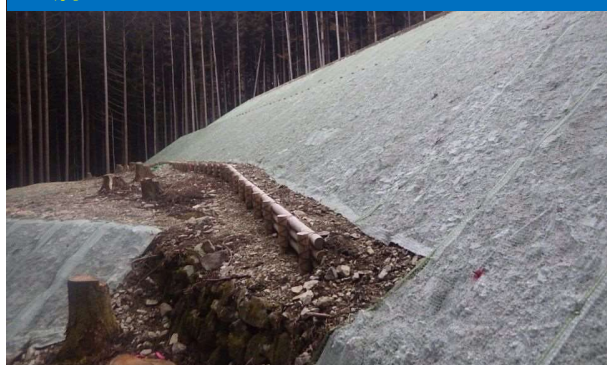
(林野公共事業における事業評価マニュアル (R5.4) に基づき算出)

## 環境面の配慮

建設発生土の縮減  
補強土壁工を路側構造物に採用



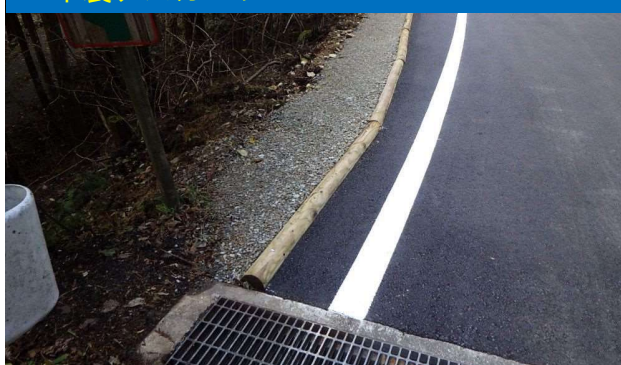
木製品の活用  
筋工



木製品の活用  
木伏工



木製品の活用  
木製アスカーブ



## 事業を巡る社会経済情勢等の変化

### □社会情勢等の変化

- 県内の合板工場、バイオマス発電施設等の稼働
- 森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度の開始
- ウッドショック（価格・需要の変動）を契機とし国産材の重要性を再認識

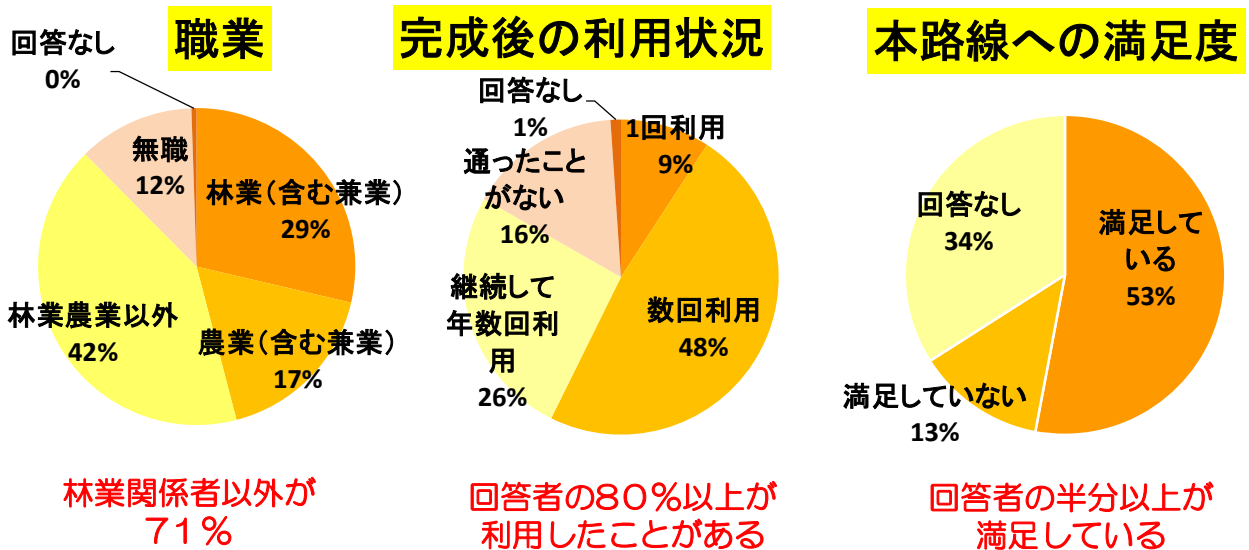
### □取り組み状況

- 地域の林業事業体は、保育間伐から搬出間伐へ転換、主伐・再造林の取組みを開始
- 下呂市が森林経営管理制度を活用し、未整備森林の森林整備（間伐）を計画的に実施

# 事業を巡る社会経済情勢等の変化



## 利用者・地域住民等への効果



### 調査方法

地域の住民及び事業体にアンケートを配布 【アンケート実施時期:令和5年7月】  
(アンケート配布先:林道のふもとの自治会、森林造成組合、森林組合、下呂市観光担当等)

### 調査結果状況

アンケート配布数 215 うち有効回答数 185 回収率86.0%

## 利用者・地域住民等への効果

### 林道 下呂～萩原線についての主な感想

- 自分の所有する山林に行きやすくなった。
- 森林整備や木材運搬がやりやすくなった。
- 林道と林道を結ぶ幹線林道として、たいへん利用しやすい。
- 登山道へのアクセスとして、とても便利である。
- 林道からの眺望が良い場所があり、自然の豊かさを楽しむことができる。
- 落石や草の除去など維持管理が心配。

### 林道 下呂～萩原線に対する主な要望、改善点

- この林道をPRして、多くの市民が健康、観光、防災のために活用できるようにしてほしい。
- 林道を常に安全に活用できるよう、適切な維持管理をお願いしたい。
- のり面が高く、林地に入りにくい。

## 対応方針（案）

### ○今後の事業評価の必要性

森林整備が計画的に実施されており、今後の森林整備計画もある



今の段階では、今後の事業評価は必要なし

### ○改善措置の必要性

アンケートの結果、多くの地域住民に利用されており、本路線の開設事業に対する改善要望はなかった。



今の段階では、改善措置の必要なし

### ○新規事業に適用すべき留意点

- 計画的な森林整備に直結する、県、市、林業事業体が一体となった林道計画
- 地域住民が主体的に維持管理できる体制づくり